

祈りの原則 ②

ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。(ヘブル 4:16)

これは、信者が天の父に祈っているときの霊的現実です。単なる絵画的な表現ではなく、霊の世界で現実に行き起きていることです。祈りによって、信者は神に近づき、神から助けと祝福を受け取り、霊的に成長します。

2019年9月から、祈りについて、聖書はどのように教えているのか、学んでいます。

□祈りに関する学び全体のテーマ

1. 祈りの原則
2. 祈りの3つのタイプ
3. 旧約聖書の中の祈り
4. 新約聖書の中の祈り
5. 祈りの条件
6. 祈りの構成と内容
7. 祈りのルール
8. 祈りの諸問題

□「祈りの原則」のアウトライン

1. 祈りとは
2. 祈りを象徴するもの
3. 祈る理由と目的
4. 祈りのすすめ
5. 祈りの約束
6. 祈りのアウトライン
7. 祈る場所
8. 祈る時
9. 祈るときの姿勢
10. 祈りの力と結果

□祈りのすすめ・・・祈りを勧める聖書箇所 8つ

1. ルカ 18 : 1~8

- (1) 1節 祈りについての原則 「いつでも祈るべきであり、失望してはならない」
 - ① いつでも・・・どのような状況や環境にあっても
 - ② 失望してはならない・・・神に信頼して希望を持ち続ける
- (2) 2~5節 不正な裁判官のたとえ話：この裁判官は公正な裁きをしようなど思ってもいないし、やもめに対して無関心であった。しかし、やもめがあきらめずに何度もやって来て、しつこく裁きを求めて来たので、ついに応じることにした。
- (3) 6~8節 適用
 - ① 不正な裁判官とは違い、神は正義を行う方であり、私たちに無関心ではない。不正な裁判官がやもめの求めに応じたのであれば、まして神は選民が夜昼、神を呼び求めるなら、神は選民を放置されることはない。
 - ② 神は、粘り強い祈りに応えてくださる。信者は神の応答が遅いように思えても、祈りをやめてはならない。
 - ③ このすすめは、しつこく祈って神の応答を引き出そうということではない。神はいつでも、喜んで進んで私たちのために何かをしてくださるお方である。粘り強く祈らせる目的は、私たちに信仰を教えるためである。私たちの信仰を増し、祈りに向かう姿勢を変え、あきらめずに踏みとどまることを教えるためである。

2. ロマ 12 : 12

- (1) 直訳「希望の中で・喜びなさい、患難の中で・耐えなさい、祈りの中で・断固として続けなさいギプロスカルテレロウ（忠実に尽くす、揺り動かされずに踏みとどまる、継続的に勤勉である）」
- (2) 信者が断固とした祈りを続けるなら、希望をもって喜ぶこと、患難の中で耐えることにつながる。

3. コロ 4 : 2

- (1) 直訳「祈りの中で・断固として続けなさいギプロスカルテレロウ、注視していなさい・その中で・感謝をもって」
- (2) 前半はロマ 12 : 12 の3つめと同じ。後半は、神がその祈りにどのように応答してくださるのかを注視するようにとの勧めである。神の応答を待つときのポイントは、「感謝をもって」である。
- (3) 断固とした祈りを続けるには、信者は祈りにエネルギーを注ぐべきである。

4. I テサ 5 : 16~18

- (1) 直訳「いつも・喜んでいなさい、絶えず・祈りなさい、すべてのことにおいて・感謝しなさい。これが、神のみこころです イエス・キリストにあって 私たちに対する」

- (2) 絶えず^ギアディアレイプトゥス・・・途切れることなく、ずっと祈り続けることを命じているのではない。このギリシヤ語が、新約聖書の中ではなく、当時の日常生活の中で使われるのは、「咳が止まらない」というときである。この場合、患者は実際に 24 時間、咳をし続けているわけではないが、「いつも咳が出ている」という感覚をもっている。それと同じ意味で理解するとよい。
 - (3) 24 時間祈り続けること、ではない。しかし、いつでも祈るという姿勢でいるべきである。
5. I テサ 5 : 25
 - (1) 直訳「兄弟たち。祈りなさい、～について、私たち」
 - (2) 自分たち自身のためにだけ祈るのではなく、他の人たちのためにも祈る。
 6. I テモ 2 : 8
 - (1) 直訳「私は願う・ですから・祈ることを・男は、どこでも、きよい手を上げて、～なしで・怒ること・言い争うこと」
 - (2) どこでも
 7. ピリ 4 : 6b
 - (1) 直訳「何もない・心配することは、しかし、すべてのことにおいて、祈りにより、そして願いにより、感謝を伴って、あなたがたの要求を知っていただきなさい、神に」
 - (2) どのような困難な問題の中でも、神は、私たちに何も心配することはないと約束しておられる。信者は祈りのときに、恐れったり嘆いたりすることなく、いつも一定の落ち着いた精神的状態で祈るように、というのが、この箇所での勧めである。
 - (3) 祈りの内容は、すべてのことにおいて、である。祈りを通して神に自分たちの要求を知っていただく。そして、最後に、神への感謝をささげる。
 - (4) 神に自分たちの要求を知っていただくための、3 つのこと
 - ① 祈りにより・・・私たちが自分のことばで必要を表し、神に祈り求める
 - ② 願いにより・・・その要求は、具体的な願いにして、神に求める。漠然とした抽象的な求めではない。
 - ③ 感謝をする・・・神が祈りに応えてくださるであろうことに感謝する。もちろん、私たちが望んだようには祈りの答えが出ないことはある、しかし、神が選ぶ答えであるなら、どのような答えであろうとも、それを喜んで受け取ることを思いつつ、感謝する。
 8. 詩篇 32 : 6
 - (1) 「それゆえ、聖徒は、みな、あなたに祈ります。あなたにお会いできる間に」
 - (2) 神はいつでもお会いできる（申 4 : 7）。新約時代は、異邦人信者もその恵みにあずかる。よって、私たちは、いつでも祈るべきである。

□祈りの約束・・・祈りに応えとの神の約束 聖書の中に 15箇所

1. 出 22 : 22～23

- (1) モーセの律法では、やもめとみなしごは特別な保護を受けた。
- (2) やもめとみなしごが不当な扱いを受けとき、神に祈るなら、その祈りは必ず聞かれて、不当な扱いをした者は、神のさばきを受ける。

2. 申 4 : 7

- (1) 「まことに、私たちの神、主は、私たちが呼ばわるとき、いつも、近くにおられる。」
- (2) 神は、イスラエル民族が神に呼ばわるとき、必ず近くにおられる。イスラエル民族は迷い出るであろう。しかし、彼らが神に呼ばわるとき、神は近くにいて必ずその祈りを聞いておられる。

3. II 歴 7 : 12～18

- (1) 14 節「彼らの地をいやそう」
- (2) これは、イスラエルの民が民族的に（全員が）悔い改めて、神の前にへりくだり、祈りをささげるなら、かの地をいやすという約束である。
- (3) この出来事は、大患難期の末期に起きる。「わたしの顔を慕い求め」とあるように、イエスをメシアとして認め、地上に帰って来てくださいとイスラエル民族が祈り求めるであろう。メシアの再臨のあと、イスラエルは信仰の民として約束の地に集められ、帰還を果たす。（現在の帰還は、不信仰の中での帰還）

4. ヨブ 22 : 27

- (1) 「あなたが神に祈れば、神はあなたに聞き、あなたは自分の誓願を果たせよう」
- (2) 人が神に祈るなら、神はその人の祈りを聞いてくださる。

5. ヨブ 33 : 26

- (1) 「彼が神に祈ると、彼は受け入れられる」
- (2) 神はただ祈りを聞くのではなく、喜んで受け入れてくださり、良きことをしてくださる。たゆむことなく祈りをささげる人に、神は良いことをもって報いてくださる。

6. 詩 50 : 14～15

- (1) 「感謝のいけにえを神にささげよ・・・苦難の日にはわたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出そう。あなたはわたしをあがめよう」
- (2) 感謝の祈りは、いけにえをささげることと同じとされる。特に苦難の中にあるときに神を呼び求め、同時に感謝の祈りをささげるなら、神はその祈りを聞かれて助け出すと約束しておられる。苦難にあったら、祈りに駆け込もう。

7. 詩 65 : 2

- (1) 「祈りを聞かれる方よ」
- (2) ここでも、神は祈りを聞くと約束してくださっている。神は「祈りを聞くお方」

であるなら、信者は「神のもとに進み出て神に祈る者」である。

8. 詩 86 : 5~7

- (1) 5 節 神はいつでも赦そうとしてくださっている
- (2) 6~7 節 ここで、ダビデは、詩篇の前述の 2 つの約束を握って神の前に出ている。
「私は苦難の日にあなたを呼び求めます。あなたが答えてくださるからです」

9. 詩 102 : 16~17

- (1) 17 節「窮した者の祈りを顧み、彼らの祈りをないがしろにされなかったからです」
- (2) 窮して神のもとに来る者（経済的に困窮する者）の祈りを、神はないがしろにはしない。

10. 箴 15 : 8

- (1) 「正しい者の祈りは主に喜ばれる」
- (2) 地上で正しい者が祈るとき、神はそれを喜ぶ。信者たちが地上で祈ると、天では神がそれを喜んで受け取ってくださる。

11. 箴 15 : 29

- (1) 「主は正しい者の祈りを聞かれる」
- (2) 正しい者・・・正しい者とは、「罪のない、完全な者」ではない。もしそうだとしたら、信者で祈りが聞かれる者は一人もいない。地上で正しい者とは、信仰を通して神の義を受け取ったことにより、義人であると認められた人々を指す。信仰によって神の方に向きを変えた人々とも言えよう。神はそのような人々の祈りを聞いてくださるという約束。

12. ルカ 11 : 13

- (1) 「なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さないことがありましょう」
- (2) 旧約時代には、聖霊が信者に臨む場合には、条件や限定があった。
 - ① 条件・・・民族の存亡にかかわる危急のときなど
 - ② 限定・・・
 - 信者の内には入らないで、その人の上にとどまった
 - いったん留まった聖霊がその人から去ることもあった
 - ③ 詩 51 : 11 「私をあなたの御前から、投げ捨てず、あなたの聖霊を、私から取り去らないでください」とは、旧約時代の信者の祈りである。
- (3) 新約時代では、信者には全員、信仰を通して恵みにより救いを受けたその瞬間から、聖霊がその人の内側に住んでくださる。そして、聖霊がその人から去ることは決してない。
- (4) ルカの福音書のこの箇所も、メシアの十字架より前なので、時代的には、まだ旧約時代である。神は、当時の信者の祈りに応えて、聖霊をお与えになることがあった。この祈りは、現代の新約時代の信者には関係のない約束である。

(5) 新約時代の信者には、信じたその瞬間にすでに全員に、聖霊が与えられている。

13. ヨハ4:10

- (1) 「あなたのほうでその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう」
- (2) 神は、求める人に永遠のいのちを与えると約束しておられる。神に求めるとは、神に祈るということである。もし人が、神に祈り、神に永遠のいのちを求めるなら、神はその人に永遠のいのちを与えてくださる。
- (3) 人が神に祈り、神に永遠のいのちを求めるとき、新約時代においては、次のことを信じる信仰をもって祈ることが条件である。
 - ① イエスは、私たちの罪のために死んだ
 - ② イエスは、墓に葬られた
 - ③ イエスは、3日目に復活した
- (4) なぜなら、イエスが死を通過して、よみがえったことは、永遠のいのちを証明したからである。これを信じるのが、イエスを遣わした神を信じることである。

14. ヨハ9:31

- (1) 「だれでも神を敬い、そのみこころを行うなら、神はその人の言うことを聞いてくださると、私たちは知っています」
- (2) 神を敬う・・・神を礼拝する、神を神としてあがめる、神の御性質をほめたたえる、こういう人の祈りを、神は聞いてくださるという約束。

15. ヤコ1:5~7

- (1) 「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます」
- (2) もしあなたが、ある決断を迫られたとしたら、どうしますか？
 - ① ✕ 何か、超自然的なしるしを求めて祈る。
 - ② ✕ 進む先で、神がドアを開くか、閉じるかをしてくださいと、祈る。

これらのような特別で明確な現象を祈り求めても、大抵の場合、神はそれには何も答えないという選択をなさる。

- ③ ○ 神から知恵が与えられるように祈る。それによって、適正な判断ができるように願う。